

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 30 年 1 月 20 日 ( 14:00~14:20 )
1. 初期支援 (はじめのかかわり)	メンバー	主任1名 常勤職員1名 パート職員4名

## ◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	4人	8人	1人		13人

## 前回の改善計画

本人・家族・介護者用のニーズについて、三者での会話を行なう場を設ける。(家族会・ケア会議)  
また、かかわりの中で介護員が本人または家族から聞き得た情報の報告を行い、「思い・身体情報・言語化できないもの」も含めてミーティングに反映し、情報を共有する事で本人・介護者・家族と連携して支援できるように努める。

## 前回の改善計画に対する取組み結果

本人・家族からのサービス利用相談から、実際にサービス開始を行なうまでの期間の面談回数を増やした。また希望・要望に対して柔軟に対応できるように傾聴と聞き取りに努めた。問題点があればその都度ミーティングを行い対応した。

## ◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
① 本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	7人	6人			13人
② サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	4人	9人			13人
③ 本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いで声掛けや気遣いができていますか?	5人	8人			13人
④ 本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	4人	9人			13人

## できている点

利用者・家族の希望や要望をしっかりと傾聴して、理解をするように努めた。  
その方らしい生活が送れるようにスタッフ間で情報を共有して話し合い、支援ができている。  
利用開始まもない頃には、介護員が声掛け、傾聴をしながら十分に注意するようにした。

## できていない点

独居利用者で家族が遠方在住の場合、家族や親戚の方との情報の共有が難しい。  
重度の認知症・心身障害者の本人に対して、本人が納得できる支援(接し方)が行えているのかがわからない。

## 次回までの具体的な改善計画

遠方在住の家族に対しての事業所からの情報発信の回数を増やす。  
重度の方、言語化が困難な方・不自由な方への接し方として、家族との協働を強化する。またカンファレンス、アセスメント、モニタリングの回数を必要に応じて増やす。